

第3種郵便物認可

車いすで街づくりの調査

藍住南小児童

藍住町の藍住南小学校の児童が九日、徳島大学の学生と連携し、道路や公共施設がすべての人に使いやすいかどうかを調べるユニバーサルデザイン点検を行った。徳大などは十月に施行された「県ユニバーサルデザインによるまちづくり推進条例」の具体化に向けて調査を進めていて、藍住南小と徳大は本年度内に共同で県に提言する。

ユニバーサルデザイン点検

徳島大と連携 県に提言へ



校区内を車いすで移動して道路や施設の危険箇所を点検する藍住南小4年生＝藍住町奥野

藍住南小四年生九十八人と徳大の学生ら計百三十人が参加。十二班に分かれ、各班が車いすを使って学校周辺を回り、道路の段差や坂道など通行に不便な箇所をデジタルカメラで撮影した。児童からは「スロープの傾斜が急で通りにくい」「側溝の金網に車輪がはさまった」「身障者用ト

イレの表示がない」「車いすから自販機のボタンに手が届かなかった」などの意見が上がった。徳大は「推進条例」の準備段階から市街地の実地調査をしている。藍住南小は確認した道路や施設の現状、改善点を記した写真入りのバリアフリー地図を十二日に作成。点検の結果は、徳大総合

科学部の檀田美雄准教授らが運営するホームページ「ユニバーサル徳島マップ」に掲載する。